

働き方改革、担い手を確保

4月から時間外労働の上限規制適用

建設産業は、クラフ
トの希求と天候不順に
わたる工工期で工を終
わらうことがめづる
ため、他の業種に比べて年
間労働時間が長く、休暇
が取りづらいという体感
があり、若者離れがその
一因となっており、また
問題となる。そのため
、国は「働き方改革」の
打ち出し、建設産業の環
境改善と魅力向上を図つて
きた。

特に長時間労働の修正に
向け、2024年4月1日
となる新労働基準法がた
る新法を歓迎するとい
う。改正法は、4月1日
施行される。原則
として労働基準では、原則
日45時間、年360時間

労働環境改善へ 国も多様な施策

いつ時分労働の長時間労働が定めの外で、民間労働者が常態化し、他分野でも一般的になっていく。女性も休みの日とまでなってきた。建設業については、5年間の短期間開設されていゝもの。育児や介護との間に本年度で終了、4月からは建設業も時外労働制に適用される。

また、22年度に在任の育児休業取得者を推進する改正育児・介護休業法が施行されたことにより、性別を問わず子育てや介護など家庭内職わりにつく女性が増えたと見られる。

無罪な家庭内職つれ、加害者として、人々足

の解消に向けて、女手先の増やすことが、そのためには育児や介護を両立しながら生活できる環境を整えることが不可欠だ。最近では、男親の関心も、育児や介護との間に「男親の参加したい」という人も増えてくる。この際、整備は最優先課題となっており、本ポイントになった。

岐阜県でも、男女ともに現場の働き方改善を促す上での役員・役員会議室や週休日勤務の差をなくす、ムルツキの発案を促す。

末永電気 (揖斐郡揖斐川町)



気兼ねなく休める風土づくりや働きがい
創出に取り組む末永電気の末永英司社長
＝掛斐郡掛斐川町極楽寺、同社本社

働きがいを出

A photograph showing two construction workers in a tunnel. The worker in the foreground is wearing a green jacket, a white helmet with a headlamp, and red gloves, holding a yellow tool. The worker in the background is wearing a blue jacket, a yellow helmet, and is also holding a tool. They are working on a concrete tunnel wall.

遊園や施設等の電気設備工事を「行方未定」として、休日を取得できない。また、電気設備工事などはすべて人件費相当として扱われる。

できた。また電費の節約も、施設が休み時間
 にしかできないことも多
 く、休日出勤が発生する
 ことも多い。この振替休
 日を自由に取得できるよ
 うに、休みを確保してい
 る。『仕事は常に入体制で
 担当していた。休日最前
 した時は、お互い最前の
 精神で話合い、個々の希
 望がかなえられるように
 している』と語るのは、電
 工部会の常任メンバー。社員
 が「仕事と家庭の両立に
 配慮する」と内閣府が掲げ
 ている。1人6年目
 で電設事業に所属し、香田
 樹也さん。『社長や上司

の愛護を念用にするため、チャレンジャーとして環境を整えるほか、資格取得を促してスキルアップを高め、女性人材の活躍の場を広げていく姿勢だ。

栗山組では、若手を中心にICTやDXの活用に向けた人材教育を積極的に実施している



情報系学生にも積極的に参加してほしい。地元の学生を対象に、職場見学やインターネットを精力的に受け入れるほか、現場監督として働く社員が業訪問会や学生との交流サロンへ参加してほしい。実際の仕事内容や最新技術などのリアルな情報を提供。参加した学生が人生を決めた実績も生まれたい。おわり。栗山社長は「自社の魅力や役割を知ってもらい、地域の建設産業の未来を担う人材の確保につなげていきたい」と話している。

栗山組 (加茂郡坂祝町)

若手の活躍推進

ICTやDXを活用



働きやすい環境を整え、次世代を担う人材の確保・育成に注力する栗山組の栗山貴稔社長＝加茂郡坂祝町酒倉、同社本社

[illegible]

果敢なリーダーに必要なのは、勇気を取り戻すこと。こうした取組みには、常に新たな知識や技術の習得が必要とされた栗山組では、ICTやDXに関する講習や勉強会の参加、資格取得などに必ず支援を実施。特に、若い世代にICTやDXの担い手となってもらいたい。手厚いサポートをしてくれる、新たな担い手を技術を得た団員は、社内の勉強会を企画を務め、その子孫を共有。会社全体の格好良さを、社員と社員同士の関係やより環境づくりにもつながっているという。

栗山組社長は、体系的な担い手の育成につながるICTの活用は、注目の分野の一つである。